

「近畿圏広域計画検討会議」第1回幹事会 議事要旨

未定稿

1. 開催日時：平成19年4月11日（水） 13：00～17：00

2. 場 所：第1別館3階 4号会議室

3. 出席者：別紙参照

4. 議事要旨

（1）「近畿圏広域地方計画学識者会議（仮称）」について

- ・事務局より説明があり、参加メンバーにおいて了承が得られた。

（2）「近畿圏広域地方計画協議会」について

- ・事務局より説明があり、参加メンバーにおいて了承が得られた。

（3）「近畿圏広域地方計画」の検討の進め方について

- ・事務局より説明があり、参加メンバーにおいて了承が得られた。

（4）「近畿圏の戦略（案）」について意見交換

○参加メンバーを3班（10名程度）に分け、「活力」をキーワードにブレインストーミングを実施。

○近畿離れ

- ・世界の中で近畿が優れているのは大学。ただ、若者は集まるが、就職時に中部や東京に出ていってしまう。
- ・京都の企業はあまり東京に移転しない。その理由として、京都はイメージがいいこと、国際的なマーケットを相手にしている企業が多いこと、大学が多いことなどがある。

○地域づくりの「あたらしいモデル」

- ・関西は「歴史、自然環境など関西は多様。価値観も多様で成熟している。」ということと言えないか。
- ・バックアップ機能はインフラが充実している近畿でしかできない。
- ・近畿には多様な歴史や文化を受け入れる素地、人と人のつながりがある。
- ・圏域を一律ではなく色分けして考える必要がある（選択と集中の観点から）。
- ・まず京阪神へ重点投資を行い、地方は別の方法で回収することを考えてはどうか。
- ・都市圏に入っていく道路整備、都市部の利益を地方に還元する方策が必要。

○産業振興

- ・関西は、それぞれの地域が特色を持ったモディック状の地域である。それぞれの地域に応じた受け皿づくりが必要である。
- ・近畿で有望な産業としては、情報家電、バイオ、ロボット、環境・エネルギー

一関係などがある。製造業分野以外にサービス業の集積も必要で、近畿でポテンシャルの高い分野として、コンテンツ、ゲーム、観光などが挙げられる。

- ・ 新しい価値観を創造し、人々の感性に訴えていく「感性産業」を育成していく必要がある。
- ・ 関西では琵琶湖の環境問題等を課題として抱えているが、反対にビジネスとして捉え、メッセなど、環境ビジネスを進めていくことも考えられる。
- ・ 観光振興の視点では、都市型観光の振興を考えていく必要がある。
- ・ 工場が多くあればいいという訳ではない。大きな工場は中国に任せ、近畿はこれをやるという戦略が必要。
- ・ 関西には多くの伝統産業の集積があるが、これら伝統産業を全国に発信していく取り組みが必要である。
- ・ 地域にあるものを最大限活用するような、地域一体となった動きをトータルとして実現していく必要がある。

○大学

- ・ 近畿は人口当たりの学生数など、大学の立地は厚く、この知的集積を活用していくことが大切。大学や研究機関等の知的集積と、例えばバイオサイエンス等の近畿圏に立地する特色ある産業との連携を深めていく必要がある。
- ・ 集積する研究機関や大学の海外とのネットワークを強化していく必要がある。
- ・ 大学は都心部に集中して立地している姿が望ましいと思う。

○物流・港湾機能

- ・ なぜ関西がアジアのゲートウェイになるべきなのか考える必要がある。
- ・ 阪神港の機能として、機能を高めるのか、値段を安くするのかという選択肢がある。
- ・ 大阪湾の大物流拠点として、トラックターミナルの整備が考えられる。近畿は地場の消費があり、また日本のいろいろな所に運べるので、物流拠点としてのメリットを有している。
- ・ 競争力を高めるには「ものを安価に動かす」ことが必要。
- ・ 日本海側港湾の活用も重要。阪神港の代替機能としての役割もある。メインルートを流れる物流にわが国に立ち寄ってもらう。日本海側に産業の集積が進むと立ち寄ってもらえる可能性が高くなる。消費地に最も近い日本海側の港は舞鶴かもしれない。
- ・ 滋賀県は中部国際空港と関西国際空港の両方にアクセスできるなど、日本海側と中部方面、関西方面を結ぶ分岐点にあり、物流面でのポテンシャルを有する。

○交通基盤

- ・ 関西は幹線交通等の基盤に恵まれているが、近畿内各都市・地域では多くの問題を抱えている。
- ・ 大阪の環状道路の未整備、都市内の渋滞などの深刻な問題がある。人が動ける基盤を絶対条件として整備していく必要がある。
- ・ 幹線軸に恵まれているといっても、日本海側や南紀に行くにはまだまだ不便

である。

○歴史・文化

- ・ 文化で人を呼ぶことのできる仕組みとそのための基盤づくりを進め、日本の文化の都を創造していくような視点が必要である。
- ・ 歴史と文化とは分けて考えた方が良く、関西は歴史には恵まれており、これに加えて新しい文化を育てることが大切になってくる。
- ・ 関西は文化財の量では他地域を圧倒している。質の面でも充実しているが、この質をネットワーク化することによってさらなる充実を図ることができる。
- ・ 文化・景観を保全して活力に結び付ける、また文化・景観を守って外に発信するという視点が大切。
- ・ 地域には住んでいる人には気がつかない価値ある文化がある。こういった1つ1つの文化をつなぎ、地域の活性化を図っていくことが求められる。
- ・ 京都の圧倒的な知名度を活用し、地域の文化を観光ルートに組みこんでいくことも大切である。
- ・ 文化資源をネットワーク化し、セット化し、情報を発信していくことが今後のテーマである。

○世界・アジアからの呼び込み

- ・ アジアの企業を近畿に呼び込む施策の方が現実的だと思う。
- ・ 外国人にとって、日本は住みにくいという印象があるので、近畿で住みやすい環境を作れば、外国人の人材育成拠点になるのではないかな。
- ・ 多様な観光メニューがある方が望ましい。近畿には、多くの資源があるので様々な観光メニュー、コースを展開できる。
- ・ 近畿のことを考えれば、関空で入出国してもらう方が良く、近畿の総合力を発信し、中国人などに都市・文化・自然の良さをアピールしたらいいと思う。
- ・ アジアの人が日本に来た時のホスピタリティが大切である。またアジアの活力を取り込むためにも、アジアの人にとって住みやすい関西にしていかなければならない。

○近畿の情報発信

- ・ 近畿は先端産業を多く持っているが、海外からみると日本は東京中心である。近畿は海外に情報発信しきれていない。文化で発信すれば近畿のオンリーワン企業はもっと発信力を持つのではないかな。
- ・ 近畿圏共同プロモーションをどのように進めていくかが課題。

○首都圏のバックアップ機能

- ・ 首都をバックアップする地域は、近畿以外にないというのは強み。証券、国税局、気象など、近畿でしかできないことは多い。
- ・ 企業のバックアップの受け皿をもうける必要がある。
- ・ 行政機関間のつながり、調整をとる機能のサブ機能を関西に用意しておく必要がある。

○都市づくり

- ・ 郊外型のまちづくりを見直していく必要がある。

- ・ 豊かな自然空間の中で生活したいと考える人は多い。古民家の再生などが考えられる。

○地方の活性化

- ・ 都市だけでなく、地方の活性化、産業振興も必要。地方の産業として、農業や観光、食品産業などがある。
- ・ 日本原風景の再生など日本らしさ、地域の文化、自然環境を生かしたグリーンツーリズムなども考えられる。
- ・ 近畿で自給率を 100%にするのは無理だが、高める必要はある。
- ・ 京野菜、若狭の食材など、いいものを多く輸出することで競争力を高めることはできないか。

○治安の改善

- ・ 近畿のイメージで治安が悪いということがある。治安が悪いというイメージを払拭しないといけない。

以上

近畿圏広域計画検討会議 第1回幹事会 出席者名簿

団体名	部署名	役職	氏名
福 井 県	総合政策部	(代理)政策推進課主査	澤崎 敏文
三 重 県	政策部		欠席
滋 賀 県	政策調整部	(代理)次長	瀬古 良勝
京 都 府	企画環境部	(代理)企画参事	稲村 智史
大 阪 府	政策企画部	(代理)企画室副理事	吉田 恭
兵 庫 県	県民政策部政策局	(代理)ビジョン課副課長	坂本 哲也
奈 良 県	企画部	(代理)次長	上野 純一
和 歌 山 県	企画部	(代理)計画局長	柏原 康文
徳 島 県	企画総務部	(代理) 総合政策局政策調査員	並木 俊明
京 都 市	総合企画局	(代理)政策推進室政策企画課長	林 建志
大 阪 市	計画調整局 計画部	(代理)広域圏計画担当課長	佐野 洋人
堺 市	財政局	(代理)都市政策担当課長	森岡 宏行
神 戸 市	企画調整局	(代理)総合計画課長	片山 昌俊
(社)関西経済連合会	経済産業本部	(代理)地域グループ次長	神田 彰
大阪商工会議所			欠席
(社)関西経済同友会			欠席
関西経営者協会			欠席
京都商工会議所			欠席
神戸商工会議所	産業振興部	(代理)次長	平岡 靖敏
関西広域連携協議会	企画第二部	(代理)部長	濱場 邦洋
警察庁 近畿管区警察局	総務監察部	(代理)警務課係長	西藤 学
総務省 近畿総合通信局	総務部	総務部長	渡辺 克朗
財務省 近畿財務局	総務部	(代理)総務課長	北川 真
厚生労働省 近畿厚生局			欠席
農林水産省 近畿農政局	企画調整室	室長	小林 英典
林野庁 近畿中国森林管理局			欠席
経済産業省 近畿経済産業局	総務企画部	部長	山田 宗範
国土交通省 近畿地方整備局	企画部	部長	深澤 淳志
	建政部	部長	坂 真哉
国土交通省 近畿運輸局	企画観光部	部長	坂野 公治
国土交通省 神戸運輸監理部	総務企画部	次長	中嶋 秀哉
国土交通省 大阪航空局	飛行場部	(代理)次長	八木 千津男
気象庁 大阪管区气象台	総務部	(代理)業務課防災調整官	馬屋原 繁
海上保安庁 第5管区海上保安本部	総務部	部長	山崎 敏也
海上保安庁 第8管区海上保安本部			欠席
環境省 近畿地方環境事務所	総務課	総務課長	木村 英雄

「近畿圏広域計画検討会議」第2回幹事会 議事要旨

1. 開催日時：平成 19 年 4 月 16 日（月） 13：00～17：00

2. 場 所：第 1 別館 3 階 4 号会議室

3. 出席者：別紙参照

4. 議事要旨

（1）「近畿圏の戦略（案）」について意見交換

○参加メンバーを 3 班（10 名程度）に分け、「暮らし・環境」をキーワードにブレインストーミングを実施。

○関西の個性

- ・ 近畿は各地域が固有の歴史・文化を持った多様性のあるモザイク状の構造をしている。モザイク状の構造を活かすなど、近畿としての持ち味を活かした地域づくりが必要。
- ・ 関西らしさとして、近所づきあいや地域地域のつながりを大切にする気風がある。
- ・ 歴史的には淀川水系が利用されてきたが、今では鉄道ネットワークや高速道路ネットワークが活用されている。鉄道ネットワークは市民の生活の支えにしてきたものであり、こうしたネットワークをサステナブルなものにしていくことが大切。
- ・ 都市が地方の就業の場となるなど、都市の人が地方の人びとと地方の人が都市の人びとと交流していくモデルを目指す必要がある。近畿では都心も地方も住むことができる。
- ・ 棚田の景観や地方の文化などは、残していく必要がある。
- ・ 住みやすいまちとしては、最低限の働く場が必要であり、働きやすいまちとの両立が必要。外国人の方も含めて考えるべきである。

○地方の生活・保全

- ・ 団塊の世代が退職した後の暮らし方がテーマとなっているが、農業関係でいくと地域の農村部に入り、担い手になることが考えられる。60 歳で退職しても 10 年は地域の担い手になれる。
- ・ 田舎暮らしは女性が大変なのでニーズが低い。女性が困らない田舎暮らしがキーワード。友達や遊び場が田舎にないことも要因ではないか。
- ・ 高齢になったときに本当に田舎志向が強まるのかは疑問。完全に本拠地を移すというよりは、余暇を田舎で楽しむようなスタイルの方が多いのでは。
- ・ 地方の課題は、生活に文化を活かし、産業につなげていく仕組みの整備。地方の活性化の中で都市との交流がキーになる。
- ・ ライフプランの中で、居住地の選択が可能になればいい。
- ・ 都市の便利さと、田舎の良さを体験できる地域を目指す。全国のマザーラン

ドで全国から移住者を呼び込む。国土保全、環境保全のためにも重要である。

- ・ 移住してもらうためには、医療や女性の気持ちが必要。
- ・ 関西は田舎部分と都心部分の距離が非常に近い。両方を気軽に享受できる地理的条件が揃っている。
- ・ アクセスは鉄道と道路であるが、高齢になると車よりも鉄道の方が便利。
- ・ 近畿は、様々なニーズに応えることができる地域であり、地域のライフスタイルにあった魅力を探り、高めることが大切。
- ・ 歴史のある地域は、その歴史を活かした暮らし方を創る。
- ・ 人が住まなくなった所の保全をどうするのか。国土を守るといった視点から機能を考えていく必要がある。

○環境

- ・ 近郊緑地保全は広域的に取り組んでいかなければならない。近畿は自然が少ないように見えるが、都市の近くに身近な自然が多く残っている。これらをいろいろな形で活用していくことが大切。
- ・ 近畿では、市民の環境意識が高く、多くの環境施策に取り組んでいる。
- ・ 近畿は、公園の整備も少なく、屋上緑化や壁面緑化を推進していくことも考えられる。近畿は、大阪城や大川にはあるが、本町など、都市の真ん中に緑がなく、克服する必要がある。
- ・ ヒートアイランドを防ぐため、屋上緑化などいたるところで緑化が必要。
- ・ 近畿は、海、琵琶湖、河川等の地理的条件に恵まれている。水を活かした都市再生の事例が世界には多くある。水を打ち出すと近畿らしさが出せるかもしれない。
- ・ 東京湾と大阪湾を比べると、東京湾は干潟が多い。大阪湾でも干潟の回復の取り組みは行っている。海があっても人が近づけないと意味がない。堺より南の海で干潟の回復にがんばってもらう。
- ・ 食品系廃棄物のリサイクルは考えられる。近畿は人工林が多く、間伐材を利用した木質バイオエタノールで何かできるかもしれない。
- ・ 森林はCO₂の吸収源としての役割を持っている。近畿ではCO₂の排出と吸収の収支が合うのではないか。「地球に迷惑をかけない近畿（サステナブル近畿）」というのは打ち出せる。
- ・ 近畿は、リサイクル率は高い方である。近畿にはごみを集める業者も多い。但し、ごみの分別についてはいい加減である。
- ・ 自然と人間がともに輝ける圏域としての戦略を加えてほしい。特に琵琶湖から淀川の流域は多様な自然が豊富にある。
- ・ 環境と経済を両立していくしかけづくりがカギ。経済と環境、生活のしやすさの三つをバランスさせ、それを世界に発信していく。
- ・ このような環境を柱とした個性を、アジアとの関係における近畿の特徴として位置付けることができる。

○文化・景観

- ・ 近畿の都市はインフラの整備は進んでいるが、リノベーションが必要なプロ

セスになっていきっている。文化・景観といった視点からインフラを今風に変え、世界に示していく時期にきている。

- ・ 近畿は多様であり、近畿らしさというイメージづくりは難しい。景観形成は地域、自治体の想像力が試される。
- ・ 多文化の共生、多様性のある文化の共生を踏まえた地域づくりが必要である。
- ・ 地域資源として差がつくのは景観であり、都市景観、自然景観などを上手く活用していくことが大切。景観と農業は密接な関係にある。にぎわう農業を目指しているが、実際に耕作されていないと良好な景観は形成されない。
- ・ 日本の都市はどこにいても同じ顔であり、自治体のイメージネーションが不足しているのではないか。自治体としてやれることも増えている。ユニバーサルデザインに統一していく方法もある。徹底するということが大切であり、中途半端はよくない。

○人

- ・ 少子高齢化が進み、将来社会の担い手の問題が深刻になってきている。子どもにとって暮らしやすい像のイメージとは何かを検討する必要がある。
- ・ 関空が24時間化すると問題になるのは女性の就業問題である。24時間化で、女性の生活のソフト問題（保育等）が課題になる。女性が働きやすい環境として最も大切なのは育児の問題である。
- ・ 結婚した後は、女性が居住地を決める。女性が住みたくなる地域を整備する必要がある。女性は治安、教育を重要視する。
- ・ 大学を出た後、いかに若者の流出を食い止めるかが問題。若者の定住のためには医療、出産、育児などが重要である。

○その他

- ・ バックアップ機能を考えるにあたり、民間企業を含めたバックアップ機能を考える必要がある。
- ・ 近年多くの分野でNPOが活躍。従来の公的サービスの民活の動きも発展。関西は市民力の素地がある。近畿の大商人、橋・堀等、自らまちづくりを主導してきた。関西はもともと「新たな公」の気質はある。

○「活力」、「暮らし・環境」のブレインストーミングを基に全体で意見交換を実施。

- ・ 世界における役割、近畿における役割を果たすという視点だけでなく、そこに出発点がなくても住みやすい近畿のためにできることという視点も必要と思う。もっとたくさんアイデアがあっても良いと思う。もう少し具体的な内容の方が良い。
- ・ どのようなことでも、何故このような形になったかを掘り下げて検討するべき。
- ・ 京阪神地域があって、消費財も増えていくので、その窓口が必要になる。アジアとの関係を考えても物流の効率化は必要。だからベイエリアの活用が考えられる。このようなストーリーが必要。バックアップ機能も、何故必要かといったストーリーが必要である。
- ・ 気になるのは一極集中で、今回の議論であまり深まっていない。もう少し具体的な議論をした方がいい。一極から二極へという方向を出した方がいい。双眼構造という表現もある。一極集中なのか、地方分散なのかという議論ははっきりすべきである。
- ・ 関東は同心円状だが、近畿は多様な都市がモザイク状に立地している地域である。近畿は環境をテーマにして、共存共栄する環境のモデル地域として発信することはできるのではないか。京都議定書以外にも、湖沼会議やエコドライブ運動など、近畿は環境に対し情報発信をしている。高速道路は全てつなぐ、公共交通機関を増やす、森を増やすなど、これから先のことを打ち出す方がより重要である。
- ・ アジアとの交流において、近畿圏には優位性がある。交流が発展すると経済効果も見込まれる。関西とアジアとの関係で、交流の拠点ということを戦略として打ち出していくことが重要と思う。アジアのゲートウェイも交通の玄関口というだけでなく、もう少し掘り下げるべきである。交流は、アジアから近畿に来るのも、近畿からアジアに行くのも両方含むと思う。アジアに限定すると九州など他地域も使っているのでインパクトが小さい。アジア・太平洋などに広げられないか。

以上

近畿圏広域計画検討会議 第2回幹事会 出席者名簿

団体名	部署名	役職	氏名
福 井 県	総合政策部	(代理)政策推進課主査	澤崎 敏文
三 重 県	政策部		欠席
滋 賀 県	政策調整部	(代理)次長	瀬古 良勝
京 都 府	企画環境部	(代理)企画参事	稲村 智史
大 阪 府	政策企画部	(代理)企画室副理事	吉田 恭
兵 庫 県	県民政策部政策局	(代理)ビジョン課副課長	坂本 哲也
奈 良 県	企画部	(代理)次長	上野 純一
和 歌 山 県	企画部 計画局	(代理)企画総務課総括課長補佐	木原 弘達
徳 島 県	企画総務部	(代理) 総合政策局政策調査員	並木 俊明
京 都 市	総合企画局	(代理)政策推進室政策企画課長	林 建志
大 阪 市	計画調整局 計画部	(代理)広域圏計画担当課長	佐野 洋人
堺 市	財政局	(代理)都市政策担当課長	森岡 宏行
神 戸 市	企画調整局	(代理)総合計画課長	片山 昌俊
(社)関西経済連合会	経済産業本部	(代理)地域グループ次長	神田 彰
大阪商工会議所			欠席
(社)関西経済同友会			欠席
関西経営者協会			欠席
京都商工会議所			欠席
神戸商工会議所	産業振興部	(代理)次長	平岡 靖敏
関西広域連携協議会	企画第二部	(代理)部長	濱場 邦洋
警察庁 近畿管区警察局	総務監察部	(代理)警務課調査官	森本 直行
総務省 近畿総合通信局	総務部長		渡辺 克朗
財務省 近畿財務局	総務部	(代理)総務課長	北川 真
厚生労働省 近畿厚生局			欠席
農林水産省 近畿農政局	企画調整室	室長	小林 英典
林野庁 近畿中国森林管理局			欠席
経済産業省 近畿経済産業局	総務企画部	部長	山田 宗範
国土交通省 近畿地方整備局	企画部	部長	深澤 淳志
	建政部	部長	坂 真哉
国土交通省 近畿運輸局	企画観光部	部長	坂野 公治
国土交通省 神戸運輸監理部	総務企画部	次長	中嶋 秀哉
国土交通省 大阪航空局	飛行場部	(代理)空港企画調整課課長補佐	樋口 悦雄
気象庁 大阪管区气象台	業務課	(代理)業務課長	馬場 雅一
海上保安庁 第5管区海上保安本部	総務部	部長	山崎 敏也
海上保安庁 第8管区海上保安本部			欠席
環境省 近畿地方環境事務所		(代理) 統括自然保護企画官	田邊 仁